

声の響きが感動を呼ぶ

校 長 武井 正明

あれは MISIA を初めてライブで聴いた時だった。

最初の曲。全く知らない曲なのに、最初のを聴いた瞬間に私も妻も涙が止まらなかった。あれは何だったのだろう。

歌には当然詞があり（ないやつもありますが）本来はそれを曲に乗せて、さらに感情が高ぶるものなのだろう。

ただ、詞以上に、声の響きだけで感情が伝わることもある。言葉を知らない赤ちゃんは、全身全霊で感情を親に訴える。今でも娘の泣き声は耳に残っている。

先週木曜の昼休みのラスト、校長先生がせっかく来てくれたのだからと、2年5組の生徒達が予定を変更して、時間ギリギリまで「道」を披露してくれた。

これが、実にいいのだ。

去年の音楽祭では、泣かされっ放しだった。我慢しても無理だから、今年は観念して、練習の段階から、泣くのを我慢するのは、もうやめた。

情感あふれるピアノの響きで、ぐっと来た。そこに堂々と、真っ直ぐで力強い男声が心臓に響いたら、詞が入らない段階で、静かに感動の波が迫ってきた。

1年5組の「マイバラード」

この曲は私が2校目の1年生を担当した時の、忘れられない曲。

彼らの切れ味ある、新しい歌い方に驚いた。

私が思っていたこの曲は、割合と滑らかに、緩やかに歌うものだという認識だったが、彼らのそれは、そこに活力が強力に加わった印象だ。私の中の「New My Ballad」だな。これも本番までどのくらい仕上がってくるのか、本当に楽しみだ。

2年3組「We Are The World」

アフリカの飢餓と貧困を解消する目的で、今から40年前の1985年にマイケル・ジャクソンとライオネル・リッチーが共作で世界中を席卷した名曲だ。

～僕らはみな神の一部 大きな家族 それが真実さ

わかるだろ 必要なのは愛なんだ～

この一節が刺さる。韓国の若いアーティストが日本の歌で感動させるのは、きっと彼らが日本語を謙虚に、深く読み込んでいるからなのだと思う。2年6組「Oh Happy Day」も同じ。英語で聴き手に伝えるには、詞の意味を深く解釈することが先決であろう。

大きなハードルを、この2クラスがいかに克服するのか、これも実に興味深い。

まだ2週間も楽しめる。学校中が音楽に染まる…こんな贅沢な時間はない。